



清水小学校 道徳科 授業づくり講座 第2回 教材研究会・授業研究会

今回は、土佐清水市立清水小学校で行われた、2セット目の授業づくり講座の様子を紹介します。



清水小学校のコンセプト：自分の生き方について、なかまと共に考えを深める道徳教育

第4学年「絵葉書と切手」(廣済堂あかつき)
【主題名】信頼のきずな 【内容項目】友情、信頼B(9)

授業者
飯村 智紀 教諭

本時のねらい

料金不足を伝えることを決めたひろ子の思いについて考えることを通して、友達を信頼しようとするところが本当の友情であることに気づき、友達との信頼のきずなを大切にしようとする道徳的心情を育む。

友達の間違いに気付いても注意をためらったり、思いを上手く伝えられなかったりする児童がいる。授業を通して、「本当の友達」とは何か、「信頼し合う友情関係」について理解を深めたい。



引き出したい児童の姿

- 相手のことを思って注意することは、きっと相手にも伝わると思うから、友情を信じて伝えることも大切だと分かった。
- 相手を信頼して行動することが本当の友情だと分かった。
- 友達のこれからのことを考えると、言にくいことがあっても伝えてあげることが必要な時もあると思う。そんな時には勇気をもって言えるようになりたい。
- お互いに分かり合えることが友達だと思う。

7月27日(水)に行われた教材研究会では、高知大学 森 有希 教授にお越しいただき、講義・演習を行いました。教材分析シートや付箋を活用して、板書や中心発問、指導の工夫を構想し、参加者全員で道徳科の授業づくりについて考えを深めました。

★教材分析の方法は色々あるけれど、まずは学習指導要領解説を開いて、【内容項目の概要】を一読してもらいたい。



B【友情、信頼】

(1) 内容項目の概要(一部抜粋)

よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育てていくことができるように指導することが大切である。



森 有希 教授

★教材から、次の4つの視点のキーワードを付箋(色別)に書き出し、構造的な板書の工夫と中心発問を考える。

ピンク:道徳的価値が表れる言葉(主人公が+に転じる言葉)→「きっと分かってくれる」

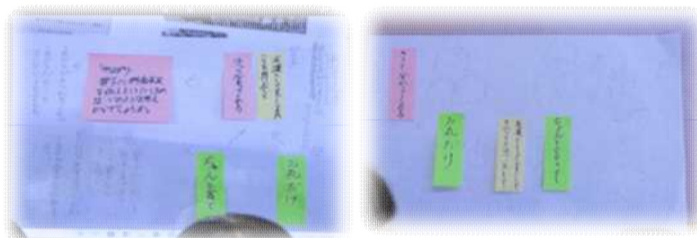
黄色:+に転じることになったきっかけ(転じる様子)→「友達と過ごしてきたことを思い出して」

緑色:複数の考え方(対立する価値、考え)→「お礼だけ」「ちゃんと言って」

水色:道徳的価値に対して-の姿や様子→今回の教材にはない

《構造的な板書の工夫》

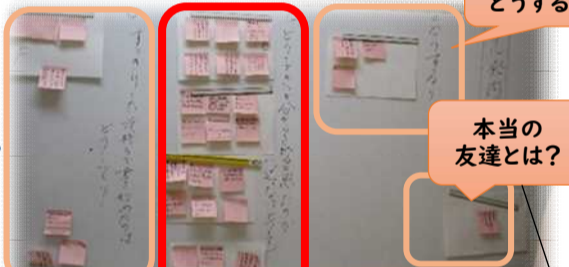
○まず、道徳的価値が表れる言葉をピンクの付箋に書き出す。次に、そう言ったきっかけの言葉や複数の考えを別の3色の付箋に書き出す。(水色はない教材もある)その付箋を生かし、子供が考えを深められるような板書を構想する。



- ・2つの対立する考えを左右に置き、対比的に考えられるようにしてはどうか。
- ・+に転じる言葉「きっと分かってくれる」を上に乗置くことで、心情の変化を捉えさせたらどうか。

《中心発問》

○板書を構想したら、子供の考えを深めていく中心発問を考え、別の付箋に書く。教材研究会では、大きく4つの中心発問が考えられた。



自分だったらどうするか?

本当の友達とは?

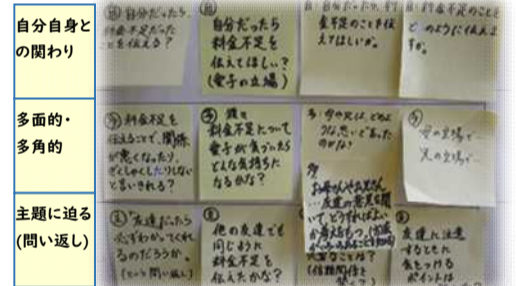
すっかりした気持ちで返事を書き始めたのはどうしてか?

どうしてきっと分かってくれると思ったのだろうか?

・教材に沿って、主人公の心情を問うことが多いが、「本当の友達とは?」のように、テーマ発問として問うこともある。

《多様な指導の工夫(活動や発問)》

○最後に、「自分自身との関わり」「多面的・多角的に捉える」「主題に迫る」の3つの視点から、発問やICTの活用等、指導の工夫を考えることで、授業を通して引き出したい子供の姿に迫れるようにする。



- ・「料金が足りない」と本当に言える?
- ・伝えたら、関係が悪くなるのでは?
- ・分かり合う関係になるには何が必要?
- 等、お互いが信頼している関係性に気付かせ、問い返しが必要ではないか。



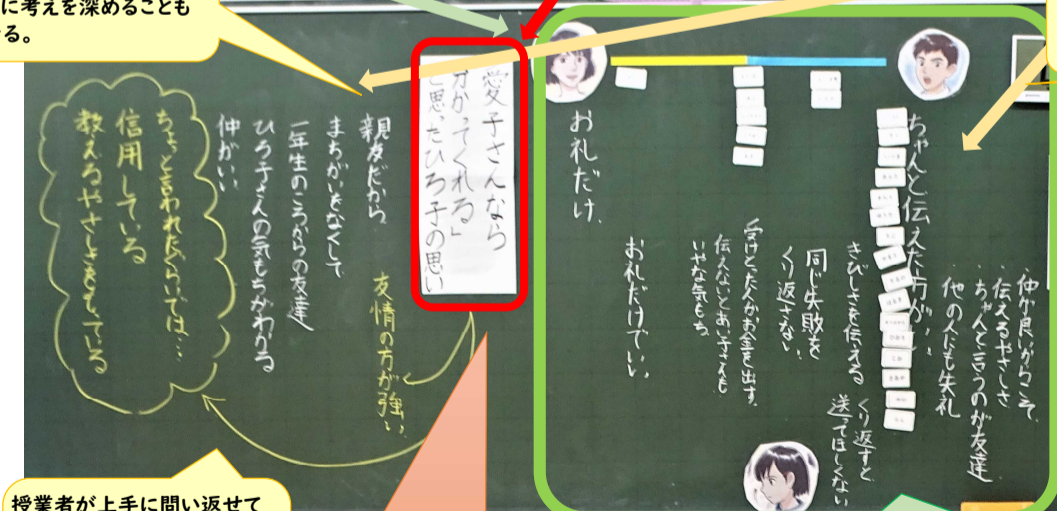
飯村 先生より

兄と母の両方の立場から考えることで、児童の考えの変わりも見られたり、自分事として考えたりしている児童もいたので良かったと思う。ICTの活用や、問い返しなどまだまだ難しいと感じることはあるが、講座でいただいた意見をもとに、これからの道徳科の授業で、子供たちのいい意見をもっと増やせるような授業をつくっていきたくです。

「親友と友達とは違うの?」と問い返すことで、さらに考えを深めることもできる。

料金不足を伝えようと思ったひろ子の思いを考えると、相手への信頼や友達を思う深い気持ちに気付かせたい!中心発問は...

「黙ってお礼だけの方が嬉しいのでは?」「ちゃんと言うのが友達ということは、何を言ってもいいの?」と揺さぶり、児童の考えを深めることができていた。



授業者が上手に問い返せていたので、そこからペアやグループで話すなど工夫をすることで子供同士が議論できるようにするとよい。

中心発問を、「愛子さんならきっと分かってくれると思ったのはなぜ?」としたことで、そこには信用し合っている関係があることについて考えを深めることができていた。

兄と母の考えを比較できるようにし、どちらも愛子のことを考えているが、「伝える優しさも必要ではないか」「言にくいことも言うことが大切では」という考えを引き出せていた。

★授業を通して引き出した子供の姿を明確にしたうえで、意図的な問い返しを行い、考えを深めていく。

★多様な指導の工夫を行うことで、主題に迫れるようにする。

☆参加者の声☆

- 他の先生と教材研究をするのはとても楽しいと思いました。流し方、考え方がそれぞれ違うのが、自分の見方と比べて大変勉強になりました。4つのカードを使った板書の構造化の方法がとても分かりやすく、自校に帰って広めたいと思いました。
- 実践を行うにあたって、意見が言いづらい児童のために日頃様々な立場で考えさせるなど、子供の実態に応じたステップで討論させるという方法も知ることができた。
- 問い返しの大切さを改めて感じました。また、目指す姿をもつことがやはり大切ですね。
- 子供たちの意見を引き出すための教材研究の大切さ、子供たちの学びを深める発問や教材・教具の工夫の大切さなどを学ぶことができました。子供主体の授業にするために、教師主導にならないように気を付けようと思いました。
- 各グループにおいて先生方が熱心に協議をしている姿から、コンセプト通りの講座となっていたと思いました。まさに、「考え、議論する」でした。また、他校の先生方と交流することで、多面的・多角的に考えることができるので、こういう機会は大事だと思いました。

授業研究会には、校内研として全職員で参加してくださった学校もありました。学校に帰ってからも同じ視点で話ができ、校内研として講座へ全員で参加したことを本当に良かったと話されていました。また、校種を超えて、中学校、高等学校からの参加や、中部や東部からも参加がありました。本当にありがとうございました!!

佐竹校長先生が「教育は連続と継続。これで終わりではなく、この取組を立ち止まることなく進んでいきたい」とおっしゃっていました。清水小学校から発信していただいた道徳科の授業づくりが、西部の学校につながっていくことを期待しています!!

